

令和3年度

山形県議会広報・広聴委員会報告書

令和4年3月11日

山形県議会広報・広聴委員会

## 目 次

1	協議の経過及び結果について（概要）	1
2	令和3年度議会広報・広聴事業実績	2
3	令和4年度議会広報・広聴事業計画	7
4	山形県議会広報・広聴委員会委員名簿	10

### （参考資料）

○	令和3年度生徒・学生と県議会議員との意見交換会の実施状況について	11
---	----------------------------------	----

## 1 協議の経過及び結果について（概要）

山形県議会広報・広聴委員会は、県議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の声を広く聴き、県民に県議会を身近に感じてもらうための取組みを進めるため、今年度7回の委員会を開催した。

委員会では、広報誌の編集やテレビ広報番組の企画、「議場演奏会」、「県議会ギャラリー」、「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」の実施方法等について協議を重ねながら、多岐にわたり県議会の活動に関する広報・広聴の充実に努めた。

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、委員会では、感染状況に配慮した議会広報活動に努めてきた。「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」では、新たにオンラインを取り入れて開催した。また、コロナ禍で議会の傍聴席数が制限される中、令和2年からスマートフォン等に対応させた議会インターネット中継は、閲覧数が大きく伸びた。

来年度の広報・広聴事業の方針等については、引き続き、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、より効果的な情報発信のあり方や時代に即した手法について検討していく必要があると思われる。また、成人年齢引き下げに伴い、若者に県議会を身近に感じてもらい政治に関心を持ってもらう取組みについても引き続き検討が必要である。

今後とも、開かれた県議会を目指し、議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の意見を広く聴くための方策について、調査・検討を深めていくことを希望するものである。

## 2 令和3年度議会広報・広聴事業実績

### 1 広報誌等

#### (1) 「県議会だより」の発行

県民に議会活動の概要を伝えるため、年6回発行し、県広報誌「県民のあゆみ」に合冊して全戸配布（約40万部）した。

昨年度実施した議会広報・広聴アンケートの結果を踏まえ、より幅広い年代が見ることから定例会の概要をより分かりやすく伝える紙面となるよう、令和3年5月号より紙面レイアウトを変更した。

号	発行日	主な掲載内容
第84号	令和3年5月1日	令和3年2月定例会の概要、3特別委員会における議会政策提言
第85号	令和3年7月1日	令和3年4月臨時会の概要、常任委員会の紹介
第86号	令和3年9月1日	令和3年6月定例会の概要、トピックス
第87号	令和3年11月1日	令和3年9月定例会の概要、3特別委員会の紹介
第88号	令和4年1月1日	決算特別委員会の概要、議長の新年の挨拶
第89号	令和4年3月1日	令和3年12月定例会の概要、トピックス

#### (2) 「県議会やまがた」の発行

県民に議会活動を詳細に伝えるため、定例会ごとに年4回・各3,500部発行し、市町村、県内主要団体、NPO法人、大学・短大等へ配布した。

号	発行月	主な掲載内容
第33号	令和3年5月	令和3年2月定例会、4月臨時会の概要
第34号	令和3年8月	令和3年6月定例会の概要
第35号	令和3年11月	令和3年9月定例会の概要
第36号	令和4年2月	令和3年11月臨時会、12月定例会の概要

### (3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

選挙権年齢の引き下げを踏まえ、高校生を中心とした若者に県議会を身近に感じてもらう、県議会に対する興味を持ってもらうため、40,000部を発行、県内の高校・大学等へ配付。なお、山形大学公認フリーペーパーサークル「Y-a i ! (ヤイ)」に協力を依頼し、若者の感性を活かした紙面構成とした。

号	発行月	主な掲載内容
第6号	令和4年3月	生徒・学生との意見交換会、議員インターンシップ学生インタビュー、第49回衆議院選挙学生意識調査 等

### (4) 「県議会のしおり」の配布

議会の役割、活動内容の周知を図るため、「県議会のしおり」を議事堂見学者等に配布した。

また、視覚障がいのある方向けに作成した点字版「県議会のしおり」についても、議事堂見学者への配布や県議会ロビーに備え付けるなどして活用した。

## 2 議場演奏会

県民に県議会を身近に感じてもらう、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会」を開催した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、議場演奏会のみで開催とし、聴衆者は一般公募に替え、県立上山高等養護学校の生徒・教職員を招待した。

#### ■ 開催概要

- ・開催日 令和3年12月14日
- ・招待者 34人（2年生及び教職員）
- ・実施内容 議場における山形交響楽団による弦楽合奏の鑑賞、議会議場における県議会の概要説明、議場見学

## 3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらう機会を設けるとともに、県民、特に若者に県議会を身近に感じてもらう、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生の文化活動の展示スペース「県議会ギャラリー」を提供した。

令和3年度は、オリンピック・パラリンピックの開催に合わせた時事的な展示や、新聞等で報道された各学校の取組みを展示することにより、コロナ禍においても県議会ギャラリーに足を運んでもらえることを目指した展示を行った。

また、議場演奏会への招待校の展示を行うなど、他の取組みとの相乗効果を狙った展示を初めて実施した。

展示期間	展示内容
令和3年6月15日 ～7月2日	「YAMAGATAドリームキッズ」の活動
令和3年8月17日 ～8月20日	写真パネルや競技用品、聖火トーチ等の展示により本県のパラアスリートを紹介
令和3年9月17日 ～10月8日	山形工業高校「山工元気プロジェクト」における「マンゴーの温室栽培」の取組みを紹介
令和3年12月2日 ～12月21日	上山高等養護学校の学校紹介及び職業科の学習で生徒が製作した木工、被服及び窯業等の製品
令和4年2月17日 ～3月17日	令和3年度郷土YAMAGATAふるさと探究コンテストで「ふるさと探究大賞」を受賞した3校の取組み

## 4 インターネット

### (1) 県議会ホームページの運営

定例会・各常任委員会・3特別委員会・議会運営委員会の概要、地域議員協議会の内容や県議会のトピックスなど、議会の動きをわかりやすくタイムリーに掲載した。

### (2) 議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信した。令和2年2月定例会以降、スマートフォン等に対応させたことによりアクセス件数は増加している。特に、令和3年度は注目を集める案件が多くあったことから、前年度を上回るアクセス件数で推移している。

### (3) 会議録検索システムによる会議情報の提供

会議録検索システムに「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録を登録し、県議会ホームページ上で、会議録の検索、閲覧、印刷、ダウンロードに対応した。

### (4) ツイッターの活用

山形県公式ツイッターを活用し、県議会ギャラリーの展示情報などを提供した。

## 5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

### (1) YBC「やまがたサンデー5」（15分番組）の活用

放映日	タイトル	主な内容
令和3年9月12日	現場の声を県政に！ ～政策提言する県議会～	3特別委員会と政策提言の取組み、議長、議会運営委員長インタビュー
令和4年3月20日	若者と議員の熱い議論 ～開かれた県議会を目指して～	大学生との意見交換会、副議長、広報・広聴委員長インタビュー

### (2) 県政広報番組を活用した定例会の告知

県政広報番組の告知枠を利用し、各定例会の日程と傍聴案内の告知を行った。

## 6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局ロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施した。

## 7 報道機関（パブリシティ）の活用

生徒・学生との意見交換会、県議会ギャラリーの展示等について、県庁記者クラブへ情報を発信した。

## 8 広聴事業

### (1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的として「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」を開催した。

当初、地域バランスを考慮して8校（県内4地域から2校ずつ）との開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって2校が中止となり、6校との開催となった。また、6校のうち2校とは、意見交換会では初の試みとなるオンライン形式で開催した。出席した議員は、正副議長、広報・広聴委員を中心に1校につき5人の延べ30人、参加した生徒数は335人であった。

意見交換会は、参加した生徒の発言の機会を確保するため、ワークショップや活動発表を多く取り入れ、各校が設定したテーマを基に山形の活性化や地域振興などについて活発な意見が交わされた。

■開催概要

開催日	学校名（所在地）	出席議員数	参加者数
令和3年7月21日	庄内農業高等学校（鶴岡市）	5人	17人
令和3年9月15日	山辺高等学校（山辺町）※	5人	10人
令和3年10月18日	山形東高等学校（山形市）	5人	240人
令和3年11月11日	米沢興譲館高等学校（米沢市）	5人	21人
令和3年11月30日	米沢東高等学校（米沢市）	5人	18人
令和4年2月9日	新庄南高等学校（新庄市）※	5人	29人

※印の学校は意見交換会をオンラインで開催し、それ以外は各学校で開催した。

(2) 山形大学との意見交換会

若者から県議会に興味を持ってもらうための方法や若者の政治参加を目的に山形大学の学生と広報・広聴委員との意見交換会を開催した。

意見交換会では、若者向け広報誌「県議会ナビ」をもとに若者が利用する広報媒体について意見が交わされたほか、2班に分かれて「若者の政治参加」、「若者の回帰・定着」について活発な議論が交わされた。

■開催概要

開催日	学校・団体名（所在地）	出席議員数	参加者数
令和4年3月4日	山形大学公認サークル ・ドットジェイピー山形エリア ・Y-a i！（ヤイ）	10人	12人



### 3 令和4年度議会広報・広聴事業計画

#### 1 広報誌等

##### (1) 「県議会だより」の発行（県広報誌「県民のあゆみ」との合冊）

項目	「県議会だより」	「県民のあゆみ」
発行回数	年6回掲載 5月号〔2月定例会分〕 7月号〔企画記事〕 9月号〔6月定例会分〕 11月号〔9月定例会分〕 1月号〔決算特別委員会分〕 3月号〔12月定例会分〕	年6回 隔月奇数月
ページ数	各号見開き2ページ（1月号は1ページ）	各号16ページ
配布先	全戸配布（約40万部）	同左
備考	幅広い年代が見ることから、より分かりやすく伝える紙面となるよう工夫していく。	

##### (2) 「県議会やまがた」の発行

発行回数	年4回（4定例会毎）
ページ数	各号タブロイド版 4ページ
配布先	県内市町村、主要団体、NPO、大学・短大等（3,500部）

##### (3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

発行回数	年1回
ページ数	A4版見開き4ページ
配布先	県内高等学校、大学・短大等（約4万部）

##### (4) パンフレットの配布等

議会についての理解や関心を高めるため、「県議会のしおり」等を議事堂見学者等に配布する他、様々な媒体を活用し情報発信を行っていく。

#### 2 議場演奏会と議会見学会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会と議会見学会」を開催する。

### 3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらうきっかけとなることを目指すともに、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会への理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生が学校の授業や部活動などで制作した作品の展示スペース「県議会ギャラリー」を引き続き提供する。

### 4 インターネット

#### (1) 山形県議会ホームページの運営

定例会・臨時会の概要や各委員会の活動状況等、様々な議会情報を引き続き一元的に掲載していく。また、県議会トピックスとして、上記以外の多様な活動も積極的に発信する。

#### (2) 議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信する。

#### (3) 会議録検索システムによる会議情報の提供（※平成4年分から）

「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録全文については、検索システムにデータを格納し、ホームページから閲覧できるようにする。

### 5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

県政広報番組枠を活用し、議会広報番組の放映を実施する。

#### (1) テレビ

県政広報テレビ15分番組による議会活動の紹介、会期告知等

#### (2) ラジオ

「定例会・地域議員協議会」開催の告知等

### 6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局ロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施する。

### 7 報道機関（パブリシティ）、各種広報媒体の活用

報道各社に対し、議会活動の積極的な情報提供を行うほか、県広報広聴推進課所管の広報媒体の活用や市町村等の広報媒体を活用した広報に努める。

## 8 広聴事業

### (1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図るため引き続き開催する。なお、意見交換会の開催にあたっては、地域バランスを考慮して実施校の選定を行い、参加生徒の発言の機会を確保するため、ワークショップや活動発表等を多く取り入れるとともに、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、オンラインでの開催も念頭に置き実施する。

### (2) 山形大学生との意見交換会

若者から県議会に興味を持ってもらうための方法や若者の政治参加を目的に、引き続き開催する。

## 山形県議会広報・広聴委員会委員名簿

委員長	渋	間	佳寿美
副委員長	高	橋	淳
委員	梅	津	庸成
委員	今	野	美奈子
委員	遠	藤	寛明
委員	相	田	光照
委員	遠	藤	和典
委員	梶	原	宗明
委員	関		徹
委員	五十嵐	智	洋

# 参 考 资 料



# 令和3年度 生徒・学生と県議会議員との意見交換会 の実施状況について

## I 総括

### 1 実施校

生徒・学生と県議会議員との意見交換会は、平成27年度の試行を踏まえて、28年度から本格実施している。令和3年度は、当初8校（県内4地域から2校ずつ）との意見交換を予定していたが、新型コロナの感染拡大の影響によって2校が中止となり、下記の6校（うち2校はオンライン）で実施し、正副議長、広報・広聴委員を中心に30人の議員が意見交換会に出席した。

学校名	開催月日	出席議員数	参加者数	開催場所
庄内農業高等学校	7月21日（水）	5人	17人	学校（鶴岡市）
山辺高等学校	9月15日（水）	5人	10人	オンライン
山形東高等学校	10月18日（月）	5人	240人	学校（山形市）
米沢興譲館高等学校	11月11日（木）	5人	21人	学校（米沢市）
米沢東高等学校	11月30日（火）	5人	18人	学校（米沢市）
新庄南高等学校	2月9日（水）	5人	29人	オンライン
合 計		30人	335人	

### 2 意見交換の概要

各校で設定したテーマを基に意見交換を行った。意見交換では、参加した生徒の発言の機会を確保するため、ワークショップや活動発表を多く取り入れて実施した。

#### 【意見交換の項目】

##### ■ワークショップ形式（2校）

#### （1）庄内農業高等学校

テーマ「私たちがのぞむ暮らし」

- ①『農業』を通じて暮らしを考える
- ②地域の『交通』から暮らしを考える

- (2) 米沢東高等学校
- ①若者の流出を防ぐ
  - ②人口減少を防ぐために
  - ③町の景観や自然を生かした県の活性化
  - ④目指せ！食料自給率国内1位！
  - ⑤コロナ禍でどのような影響があったか

### ■活動発表形式（3校）

- (1) 山辺高等学校
- ①コロナ禍における専門高校の学習環境について
  - ②医療・福祉の人材不足解消について
- (2) 米沢興譲館高等学校
- テーマ「地域振興について」
- ①空き家を利用した学習スペースづくり
  - ②コロナ禍におけるハイブリッド型イベントの可能性
- (3) 新庄南高等学校
- テーマ「高校生ボランティアから考える地域の未来」
- ①キトキトマルシェに参加して感じたこと
  - ②地域とのつながり ～ボランティアサークルふなっこの活動を通して～
  - ③ゴミ拾いイベントを開催して
  - ④よりみちくら部の活動に参加して

### ■質疑応答形式（1校）

- (1) 山形東高等学校
- テーマ「地域創生（山形の活性化に向けて）」
- ①コロナウイルス感染症対策について
  - ②過疎化・高齢化・若者定着について
  - ③山形らしさ・山形の強み・その広報について
  - ④県議会・高校生について
- など



### 3 アンケート結果の概要

#### (1) 意見交換会を実施しての感想

参加した生徒からは、議員の考えを直接聞くことができる点や議員に直接質問することができる点において好意的な意見が多く寄せられ、意見交換会が議会や議員を身近に感じてもらう契機となっていることがうかがえる。

一方で、特に大人数で実施した学校からは、時間配分や質疑項目の選定について改善を求める意見もあった。

#### 【感想（主なもの）】

##### ① 議員との意見交換について

- ・活動発表の際、体操に参加してくれるなど議員が親しみを持って接してくれたので、今まで持っていた議員に対する堅いイメージが大きく変わった。
  - ・オンラインでの開催に当初不安があったが、自分達の意見を伝えることができる機会を設けてもらったことは、これからの活動を深く考えるきっかけとなった。
  - ・オンラインではなく、実際に議員と会って交流がしたいと思った。
  - ・政策などの話だけでなく、議員が普段どのようなことをしているのか聞きたかった。
  - ・これからは、多様な考え方や広い視野を持って意見を述べていた議員の方々を参考にして、地域課題などに対して探究したいと思った。
  - ・せっかくの議員との意見交換会だったのに、何も発言できなかったのもったいないと後悔した。
- など

##### ② 政治や選挙への関心について

- ・意見交換会に参加して、素直に今の日本はもっと変わっていけるんだと思った。
- ・将来のために今私たちが出来ることを話し合うことができた。今後も山形県のためになることを考えて生活していきたいと思った。
- ・私たち高校生が広い視野を持ち、地域のことについて大人と意見を出し合うことは、地域の様々な課題を知り、そして新たな発見をするとても貴重な機会であると思う。私たち若い世代が、自分達の住む地域をより良くしていかなければならないと改めて思った。
- ・選挙権を与えられ、政治・経済に深く関わり始める高校生が、更に意見やアイデアを出し、地域を創っていくことが大切だと思った。
- ・インターネットや本を調べただけでは知ることのできない、リアルな意見を聞く貴重な機会となった。こうした体験は全部の高校生ができることではないので、意見交換会に参加した私たちが政治に関心を持って行動していかなければ

ならないと思った。

- ・立場によって正解が変わっていくような世界で、政策を練り実践していくことは難しいことだと改めて思った。県の政治は特に自分に関わることなので、積極的に情報を得ていきたい。
  - ・生徒と議員の考え方が違うところがいくつかあり、山形の政治にももっと若者の意見が反映されるようになれば良いと思った。
- など

### ③ その他

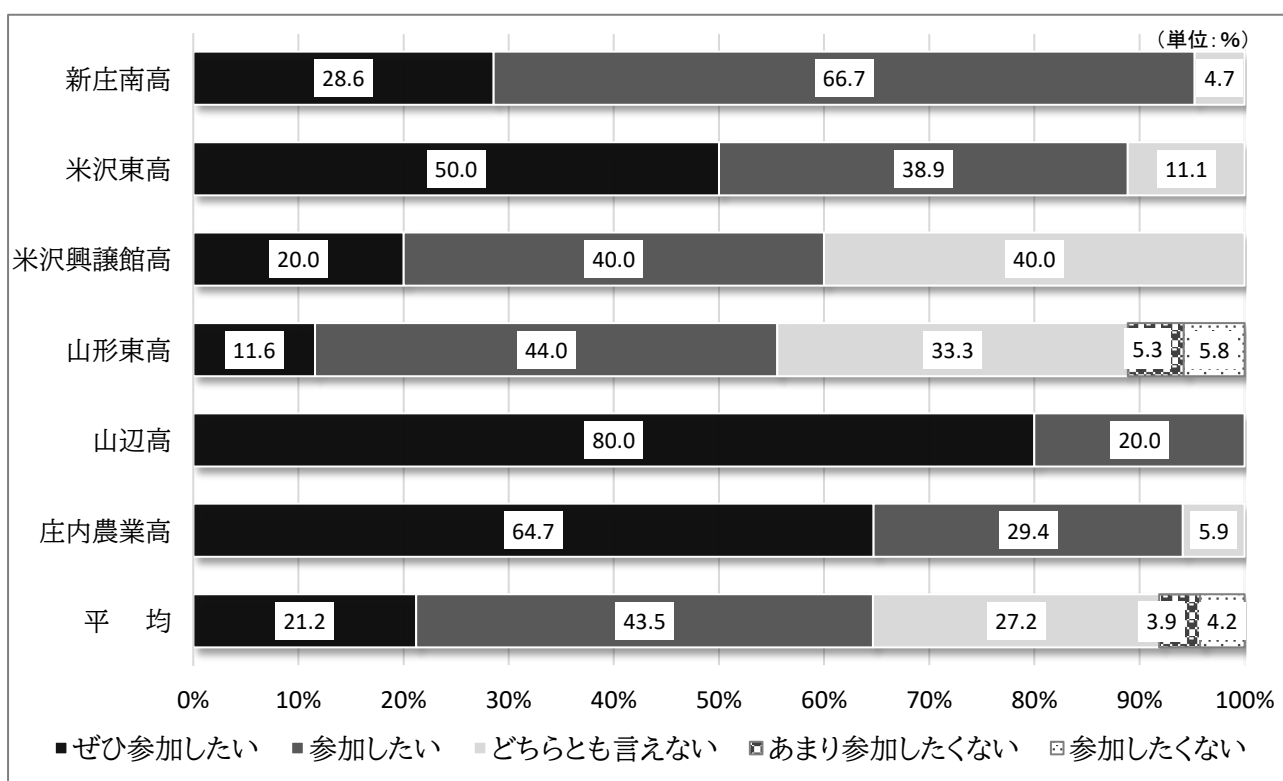
- ・ずっと話を聞いているだけではなく、グループ活動のような時間を設けてもらったことが積極的に参加している感じがして良かった。
  - ・自分が思っていた以上に山形県にも様々なプロジェクトがあることに驚いた。山形県を東京などのように発展させるのではなく、自然に着目したいという考えに強く共感した。
- など

## (2) 今後の参加希望について（実施後のアンケートより）

各校の回答を集計すると「ぜひ参加したい」と「参加したい」が約65%を占め、全体として好意的に受け止められている。特に、ワークショップや活動発表を取り入れて実施した学校では、好意的な評価が多い傾向が見られる。

また、今年度初の試みとしてオンラインで実施した2校でも、好意的な評価が得られた。

## 参考／アンケート集計結果



### (3) 政治への関心を高め、県議会を身近に感じてもらうための提案

意見交換会の拡充を求める意見が最も多く、次いで、SNS (YouTube、Twitter、インスタグラム、TikTok等) や各種広報媒体 (ポスター、CM、マスコットキャラクターの作成) を活用した若者への情報発信の強化を求める意見が多く見られた。その他、模擬投票・模擬議会の実施や学校の授業への導入などの意見が見られた。

- ・議員と対面で話すことが出来る機会をもっと増やす (交流の機会を増やす)。
  - ・議員によるトーク会や1日県議会議員などのイベントを開催する。
  - ・意見交換会を小学校や中学校でも行い、若者が政治に触れる機会を増やしていく。
  - ・授業として意見交換や議会見学を取り入れ、生徒間でも話し合う機会を設ける。
  - ・SNSやインターネットを活用した情報発信の強化と併せ、質問箱などで若者の声を集める工夫をする (堅苦しい文章だけでは不十分)。
  - ・若者を対象に行っている活動をポスターなどにして学校に掲示する。
  - ・芸能人を交えた交流会を開催するなど、若者が関心を寄せるような仕掛けをする。
  - ・マスコットキャラクターがあると身近に感じる。
- など

## II 学校ごとの実施状況

### 1 庄内農業高等学校

開催日	令和3年7月21日（水）
開催場所	庄内農業高等学校（鶴岡市）
出席議員	坂本貴美雄、森谷仙一郎、石黒覚、梶原宗明、相田光照
参加者	生徒会（農業クラブ）役員17名
意見交換の概要	<p>「私たちがのぞむ暮らし」をテーマに、農業と交通の両分野から地域の課題等を探り、どのように課題解決を図っていくかについて、生徒と議員が2つのグループに分かれてワークショップ形式で意見交換を行い、グループごとに発表を行った。</p> <p>【主な発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の就農を促すためには、体験やPRを通して農業の魅力を積極的に伝え、イメージアップを図る必要がある。</li> <li>・庄内農業高校で作った「庄農うどん」や「ニューピス」などの農産加工品を実際に食べてもらうことで、若い世代から農業に興味を持ってもらうことができるのではないかと。</li> <li>・農村部の高齢化が進む中、高齢者の孤立を防ぐため、地域の交通手段を確保する必要がある。</li> <li>・県産品の輸出拡大や観光振興、さらには災害時の輸送手段を確保する観点から、酒田港へのアクセス道の整備を進める等、高速交通網を充実させる必要がある。</li> </ul>

### 2 山辺高等学校

開催日	令和3年9月15日（水）
開催場所	山辺高等学校（山辺町）、山形県議会（山形市） ※オンライン開催
出席議員	奥山誠治、島津良平、青柳安展、渋間佳寿美、遠藤和典
参加者	生徒会役員10名
意見交換の概要	<p>「コロナ禍における専門高校の学習環境について」及び「医療・福祉の人材不足解消について」をテーマに、県議会議事堂と山辺高校をオンラインで結び意見交換を行った。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者向けのレトルト食品や米粉パンの開発、地元の食材を活用した健康志向の弁当作りなどに取り組んでいるが、コロナ禍で行事やイベントが開催できないため、地域の方々へ届ける機会が減っている。</li> <li>・健康体操や認知症予防など、高齢者の健康維持に向けた取り組みを行っているが、コロナ禍で活動を自粛せざるを得ない状況である。</li> <li>・福祉分野に対するマイナスイメージを払拭し、介護人材を育成・確保することが必要である。</li> <li>・コロナ禍で看護の現地実習に取り組む機会が減ってしまい経験を積むことができなくなる等、学習面での不安が大きい。</li> </ul>

### 3 山形東高等学校

開催日	令和3年10月18日（月）
開催場所	山形東高等学校（山形市）
出席議員	坂本貴美雄、矢吹栄修、関 徹、渋間佳寿美、今野美奈子
参加者	1年生約240名
意見交換の概要	<p>「地方創生（山形の活性化に向けて）」をテーマに、生徒からの事前アンケート等を基に意見交換を行った。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国トップレベルの学校を新たに設置するなど、山形の豊かな自然と調和した教育環境を充実させることにより、子育て世代の移住・定住を促進してはどうか。</li> <li>・コロナ禍による経済状況の悪化等により、働きたくても働けない人達がいる。受入れ側となる企業に対する援助をより手厚くすることによって、そうした人達を支援する仕組みづくりを行ってはどうか。</li> <li>・山形の魅力である「自然」を活かした政策を進めるためには、人の手を加えた都市と融合した「自然」と、人の手を加えていないありのままの「自然」とを区別し、地域の実情に応じて推進する必要がある。</li> </ul>

### 4 米沢興譲館高等学校

開催日	令和3年11月11日（木）
開催場所	米沢興譲館高等学校（米沢市）
出席議員	奥山誠治、柴田正人、松田敏男、遠藤和典、今野美奈子
参加者	生徒会役員21名
意見交換の概要	<p>「地域振興について」をテーマに、意見交換を行った。意見交換会では、生徒自治会執行部による活動報告に加え、2年SSR探究活動班より「空き家を利用した学習スペースづくり」と「コロナ禍におけるハイブリッド型イベントの可能性」についての発表が行われ、意見を交わした。</p> <p>【主な発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題解決を考える中で、米沢市周辺で増加している空き家に着目した。空き家を誰でも利用できる学習スペースとして活用することで、放置される空き家を減らすだけでなく、学生やリモートワークを行っている社会人等の交流の場として広がっていくことが期待される。</li> <li>・コロナ禍で従来のような対面型イベントの開催が困難となっている中、オンラインでのイベント開催が増加していることに着目した。オンラインイベントの手軽で参加しやすいという利点と、利益を生み出しやすいという対面型イベントの利点を融合させた、ハイブリッド型イベントの今後の展開が期待される。</li> </ul>

## 5 米沢東高等学校

開催日	令和3年11月30日（水）
開催場所	米沢東高等学校（米沢市）
出席議員	坂本貴美雄、島津良平、青木彰榮、五十嵐智洋、遠藤寛明
参加者	地歴・公民①ゼミ20名
意見交換の概要	<p>「若者の流出を防ぐ」、「目指せ！食料自給率国内1位！」等をテーマに、5つのグループ（1班あたり生徒4名・議員1名）を編成し、テーマに沿った意見交換と成果発表を行った。</p> <p>【主な発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一度県外に出た若者が戻って来やすい環境をつくるのが大切。</li> <li>・山形は住みやすい、食べ物が美味しいなどの魅力がたくさんあるので、もっと魅力を発信する方法を考えていかなくてはならない。</li> <li>・山形県は若い女性が日本一県外に出て行ってしまう県なので、安全であることや土地が安いことなどを発信するとともに、東京と同じ賃金で格差をなくすことが必要。</li> <li>・生産量の多い農作物を更に伸ばすほか、他県に山形県の物をPRし、たくさん購入してもらえるようにすべき。</li> <li>・コロナ禍の影響で失業者が出たり、企業が倒産しないよう様々な補助事業を実施したため、歳入歳出が増えていたことが分かった。</li> </ul>

## 6 新庄南高等学校

開催日	令和4年2月9日（水）
開催場所	新庄南高等学校（新庄市）、山形県議会（山形市） ※オンライン開催
出席議員	奥山誠治、小松伸也、相田光照、高橋淳、梅津庸成
参加者	発表者（3年生）及び生徒会役員等（1、2年生）29名
意見交換の概要	<p>「高校生ボランティアから考える地域の未来」をテーマに、県議会議事堂と新庄南高校をオンラインで結び意見交換を行った。意見交換会では、3年生の代表4名より「キトキトマルシェに参加して感じたこと」、「地域との関わり ～ボランティアサークルふなっこの活動を通して～」、「ゴミ拾いイベントを開催して」、「よりみちくら部の活動に参加して」と題して活動発表が行われ、発表内容を基に意見を交わした。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に参加し、幅広い年代の方々と交流することで視野が広がった。</li> <li>・一人ではできないことでも、みんなの力が結集すると実現できることを体現できた。</li> <li>・ボランティア活動に限らず、様々な活動や交流を通して感じられる地元の魅力がある。大人になっても忘れることなく、自らが広告塔となって地元の魅力を発信して行って欲しい。</li> </ul>